

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	基礎看護学概論Ⅰ					
講師名	①渡邊 和子 ②前原史枝			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	看護の基本となる概念について理解し、「看護とは何か」「看護の対象である人間とは」を考える。 倫理原則および看護者の倫理綱領を理解し、看護現場での倫理的課題に気づき、倫理的課題に対する「問」を持つことができる。					
到達目標	1. 看護の原点と看護の本質に ついて学び、看護の理念に ついて説明できる 2. 人間 環境 健康 看護の 概念とそれぞれの相互関係 について説明できる 3. 看護の歴史的変遷が分かり 、現在の看護を取り巻く社 会の動向が説明できる 4. 看護者としての職業倫理を 理解し、自覚と責任を持つ 姿勢を養う 5. 看護実践に携わる職業の成 り立ちと法制度につて説明 できる 6. 多職種の役割と責務につい て説明できる。 7. 広がる看護の役割、活動領 域について考える 8. 自分の考えをまとめ相手に 分かるように発言、発表で きる 9. 倫理的課題に対するアプローチについて考察する					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	看護の本質				講義	
2	看護とは				講義 グループワーク	
3	看護の対象				講義 グループワーク	
4	看護の対象				講義 グループワーク	
5	健康と生活				講義 グループワーク	
6	看護の役割と機能				講義 グループワーク	
7	看護における連携と協働				講義 グループワーク	
8	1. 倫理とは 2. 医療専門職の倫理規定				講義	
9	3.倫理の歴史的経緯と看護倫理		看護学生1年生の倫理的ジレンマ①		講義	
10	4. 倫理原則:医療の場における原則 ピーチャムとチルドレンフライ		看護学生1年生の倫理的ジレンマ②		講義	
11			看護学生1年生の倫理的ジレンマ③		講義	
12	5. 現代医療におけるさまざまな 倫理問題 * 事例を基にグループ学習		看護学生1年生の倫理的ジレンマ④		講義 グループワーク	
13	6. 倫理的ジレンマ * 事例を通してグループワーク				講義 グループワーク	
14	7. 倫理的葛藤と対応 * 事例を基に検討				講義 グループワーク	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 :医学書院 よくわかる看護職の倫理綱領 :照林社					
参考書・資料等	看護の基礎となるもの :日本看護協会 看護覚書 :現代社 倫理コンサルテーションハンドブック :医歯薬出版株式会社 看護倫理を教える・学ぶ 倫理教育の視点と方法 :日本看護協会出版会 学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理 :日本看護協会出版会 看護倫理を考える言葉 :日本看護協会出版会 事例で学ぶケアの倫理: MC メディカ出版 系統看護学講座 別巻 看護倫理 :医学書院 プリント・資料 (必要に応じて配布)					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(看護覚書・変遷:50点/倫理・論理:50点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	基礎看護学概論Ⅱ コミュニケーション、活動・安全・安楽				
講師名	高岩 順子			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	1 看護におけるコミュニケーションについて理解する。 2 姿勢の基本知識、体位保持、ボディメカニクスの原理を理解し、体位と体位交換に必要な基本的援助技術を理解し実施できる。 3 車椅子とストレッチャーについて理解し、移乗移送に必要な基本的援助技術を理解し、実施できる。 4 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠障害をもつ患者への援助技術がわかる。 5 褥法の種類と褥法が身体に及ぼす影響を理解し、褥法の実際がわかる。 6 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について考えることができる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	コミュニケーションの基本知識			課題(5 点)	講義
2	看護・医療におけるコミュニケーション				
3	コミュニケーションに必要な技術				
4	看護技術を学ぶにあたって 看護技術とは・看護技術の特徴・観察とは			課題(5 点)	講義
5	基本的な活動の援助 ①基本的活動の基礎知識 ②体位 ③移動(体位交換、歩行、移乗・移送)				
6	基本的な休息の援助 ①援助の基本知識 ②睡眠・休息の援助 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ①体位保持の基本知識と援助 ②褥法の援助の基本知識と援助				
7	体位交換、歩行の援助、移乗・移送			レポート(10 点)	演習
8	テスト			筆記試験(80 点)	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 :照林社				
参考書・資料等	看護技術がみえる vol.1 :メディックメディア ユマニチュード入門 :医学書院				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅰ 環境調整、感染防御				
講師名	鈴木 恵一			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期
学習目的	【環 境】 療養生活の環境の意義を理解し、環境調整ができる。 【感染防止】 感染予防の意義と原則を理解し、行動できる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	感染防御	感染とその予防と基礎知識 感染と感染症、感染成立の条件、感染予防、院内感染の防止、手指衛生			講義
2		標準予防策(スタンダードプリコーション) 標準予防策の基礎知識、対策の実際			講義
3		感染経路予防策 洗浄・消毒・滅菌 感染経路別予防策の基礎知識、接触予防策、飛沫予防策、空気予防策、洗浄・消毒・滅菌の基礎知識			講義
4		無菌操作(DVD) スタンダードプリコーション演習 無菌操作の基礎知識、対策の実際、手指衛生演習、個人防護用具(PPE)演習			講義
5		無菌操作(DVD) スタンダードプリコーション演習 無菌操作の基礎知識、対策の実際、手指衛生演習、個人防護用具(PPE)演習			講義
6		感染廃棄物の取扱い・針刺し防止策・医療施設における感染管理 感染症廃棄物の基礎知識、針刺し防止の基礎知識、対策の実際、感染管理のための組織、感染発生時の対応			講義
7	環境調整	環境とは			講義
8		快適な環境 快適な生活環境・快適な生活環境の条件			講義
9		病床環境 病床環境・快適な病室の環境条件			講義
10		ベッドメイキング ベッドの構造と付属品・ベッドメイキングの方法			講義
11		無菌操作 医療器具の管理・洗浄消毒滅菌・無菌操作の方法			講義
12		感染症廃棄物 感染性廃棄物とは・感染症廃棄物の取り扱い・針刺し事故時の対応			講義
13		リネン交換 リネン交換の目的と方法			講義
14		臥床患者のリネン交換 リネン交換の目的と方法			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ :医学書院				
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :照林社 プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(感染防御:50 点/環境調整:50 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅱ バイタルサイン、フィジカルアセスメント				
講師名	① 高岩 順子 ②佐藤 晶子		実務経験	① 専任教員 ② 大学講師	
単位数	2 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	【バイタルサイン、フィジカルアセスメント】 バイタルサイン、フィジカルアセスメントの意義を理解する。 体温、脈拍、血圧、呼吸の観察と測定の方法を理解する。 意識レベルの観察を理解する。 対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメントに必要な技術・プロセス・態度を理解する。				
到達目標	「バイタルサインの測定」に関する基礎知識と実施における原理原則、安全・安楽・正確に測定することができる。 問診およびフィジカルイグザミネーション(視診・打診・触診・聴診)の原則と方法について述べることができる。 問診およびフィジカルイグザミネーションを実施し、記録できる。 ヘルスアセスメントを行う上での倫理的配慮・態度を遵守できる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	バイタルサイン	バイタルサインとヘルスアセスメントとは 環境とその変化、フィジカルイグザミネーション、 BLSメガコードから見る生命の徴候			講義
2		体温測定 バイタルサインとは、体温に関わる生理とは・体温測定の意義と実際 脈拍測定 脈拍測定の意義と実際・ 脈拍のメカニズムと生理機能			講義
3		呼吸測定 呼吸測定の意義と実際・ 呼吸のメカニズムと生理機能 血圧測定 血圧に関する基礎知識・循環動態のメカニズムと生理・触診法と聴診法 の実際			講義
4		意識とは 意識障害について・GCSとJCSの違い・学内演習に向けて			講義
5	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントとは フィジカスアセスメント(1)呼吸器系①		教科書③、パワーポイント	講義
6		フィジカルアセスメント(1)呼吸器系②		教科書③、パワーポイント	講義
7		フィジカルアセスメント(2)循環器系		教科書③、パワーポイント	講義
8		フィジカスアセスメント(3)消化器系		教科書③、パワーポイント	講義
9		フィジカルアセスメント(4)筋骨格系 フィジカスアセスメント(5)神経系		教科書③、パワーポイント	講義
10		フィジカスアセスメント(6)頭頸部・感覚器		教科書③、パワーポイント	講義
11		フィジカルアセスメントの実際(1)呼吸器系		教科書③、聴診器、メジャー、角度計、 バスタオル、アルコール綿、フィジカルア セスメントモデル(人形)、マイク	演習
12		フィジカルアセスメントの実際(2)循環器系 フィジカスアセスメントの実際(3)消化器系 腹部の観察、腸蠕動、限局性圧痛点		教科書③、聴診器、ペンライト、秒針付き 時計、バスタオル、アルコール綿、フィジ カルアセスメントモデル(人形)、マイク	演習
13		フィジカルアセスメントの実際(4)筋骨格系 関節可動域(ROM)、徒手筋力テスト(MMT) フィジカスアセスメントの実際(5)神経系 反射、知覚、小脳機能		教科書③、角度計、打腿器、アルコール 綿、マイク	演習
14		フィジカスアセスメントの実際(6)頭頸部・感覚器 視野検査、瞳孔反射、頭頸部のリンパと甲状腺の触診、聴力検査		教科書③、ペンライト、音叉、秒針付き時 計、アルコール綿、マイク	演習
15	テスト			テスト終了後、演習記録を回収する	
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 ② 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 ③ ナーシング・グラフィカ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ :メディカ出版				
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :照林社 プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(バイタルサイン:30点/フィジカルアセスメント:70点)				
関連科目	形態機能学、心理学、環境学、病態学、看護学概論、看護技術論、看護過程論など (空欄の無いようにというのですが、貴校の科目名がわからないので…、すみません。)				
学生への メッセージ	フィジカルアセスメント:演習時の身だしなみは、後日指定する通りに整えてくること。				

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅲ 食事・栄養管理、排泄、清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪					
講師名	①山本佳代 ②速水美樹 ③山本佳代			実務経験	専任教員	
単位数	2 単位	授業回数	24 回	時間数	45 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	通年	
学習目的	【食事・栄養管理】 対象の栄養状態及び食欲・摂取能力について理解し、食事介助に必要な基本的援助技術を身につける。 【排泄】 排泄の意義・メカニズム・アセスメントの方法を理解し、排泄援助に必要な基本的援助技術を身につける。 【清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪】 清潔援助の効果と全身への影響を理解し、清潔に必要な基本的援助技術を身につける。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	① 食事・栄養管理	基礎知識 食事の意義			講義	
2		基礎知識 食事と栄養のアセスメント			講義	
3		摂食嚥下 摂食嚥下障害、摂食嚥下訓練			講義	
4		食事援助 誤嚥の予防／経口摂取解除の方法			講義	
5		食事援助 食事援助の実際			講義	
6		食事援助 非経口的栄養摂取の方法			講義	
7		食事援助			演習	
8	② 排泄	基礎知識 自然排尿・排便の基礎知識			講義	
9		基礎知識 排尿・排便のアセスメント			講義	
10		援助の実際 トイレ介助・ポータブルトイレ介助			講義	
11		援助の実際 床上排泄(尿器・便器・おむつ介助)			講義	
12		援助の実際 一時的導尿・持続導尿			講義	
13		援助の実際 排便を促す援助(浣腸・摘便)			講義	
14		トイレ介助・ポータブルトイレ介助			演習	
15	③ 清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪	清潔援助の基礎知識 清潔と衣生活に影響する要因 清潔と衣生活のアセスメント、清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助			演習	
16		清潔援助の実際：入浴・シャワー浴の介助	入浴・シャワー浴の介助		演習	
17		清潔援助の実際：点滴ドレーン等を装着していない患者の清拭・寝衣交換・整容	清拭・寝衣交換・整容		演習	
18		清潔援助の実際	清拭・寝衣交換		講義	
19		清潔援助の実際	清拭・寝衣交換		講義	
20		清潔援助の実際：洗髪・手浴・足浴	洗髪・手浴・足浴		講義	
21		清潔援助の実際	洗髪・整容・手浴・足浴		講義	
22		清潔援助の実際	洗髪・整容・手浴・足浴		講義	
23		まとめ			講義	
24	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院					
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :照林社 ナースが視る人体 :講談社 看護 形態機能学 プリント・資料 (必要に応じて配布)					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(食事・栄養管理:30点/清潔・寝衣交換・全身清拭・洗髪:40点/排泄:30点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	基礎看護技術Ⅳ 看護過程				
講師名	中島一美			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	看護過程を構成する要素とそのプロセスと看護過程を用いることの意義を理解する。 看護過程の各段階について基本的な考えを学び、V.ヘンダーソンの看護理論に基づく看護過程の展開ができる。				
到達目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を説明できる 2. 看護過程の各段階についての基本的な考え方を記述することができる 3. 看護記録の目的と留意点について記述することができる 4. 実際の事例をもとに看護過程の展開ができる				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	看護過程とは、看護過程の5つの構成要素 5つの構成要素の関係				講義
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方、問題解決過程・クリティカルシンキング論的配慮と価値判断、リフレクション				講義
3	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護過程の各段階ヴァージニア・ヘンダーソン、看護の定義				講義
4	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 アセスメント(情報の収集と分析)				講義
5	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護問題の明確化				講義
6	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護計画				講義
7	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 実施・評価				講義
8	看護記録とは、記載管理における留意点、看護記録の構成 SOAP 法・看護サマリー				講義
9	事例展開：誤嚥性肺炎 情報(基礎データ) ～患者から情報をとる～				講義
10	事例展開：誤嚥性肺炎 アセスメント				講義
11	事例展開：誤嚥性肺炎 看護問題の明確化				講義
12	事例展開：誤嚥性肺炎 看護計画				講義
13	事例展開：誤嚥性肺炎 実施				講義
14	事例展開：誤嚥性肺炎 評価・記録(SOAP)				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 看護技術Ⅰ :医学書院				
参考書・資料等	看護過程に沿ったヘンダーソン看護論の実践 :ヌーヴェルヒロカワ 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方 :照林社 患者さんの情報収集ガイドブック :メヂカルフレンド社 プリント・資料 (必要に応じて配布)				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目	基礎看護概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
学生へのメッセージ	看護過程とは、看護師が看護を行うプロセスです。患者さんに必要な看護ケアが判断・実施できるように一緒に学んでいきましょう。				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	臨床看護技術Ⅰ 経過別看護、症状別看護				
講師名	門馬 良明			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	これまでに学んだ講義や演習・実習から得た知識・技術を基に対象の状態をアセスメントし、看護を統合的に考える能力を習得する。事例検討やグループワーク、自己学習を活用して理解を深める。				
到達目標	1)健康状態に伴う看護ニーズの特徴、看護の在り方を理解する。 2)主要症状に関して、人体の解剖生理的メカニズムを理解し、症状改善のために必要な援助を理解する。 3)疾患、症状、治療を関連付けて事例患者の状態を考察する。 4)臨床看護師が行う思考過程を理解する。 5)自己学習能力を培い、自らの課題を明らかにする。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	健康と経過別の看護の概念 ①健康とは ②経過別の区分 ③健康の維持・増進				講義
2	臨床推論と臨床判断(臨床看護師の思考過程)				講義
3	急性期における看護 ①急性期の特徴 ②侵襲の強い検査を受ける患者の看護 ③手術を受ける患者の看護				講義
4	急性期 事例1:心筋梗塞 ①病態 ②検査 ③治療				講義
5	事例1:心筋梗塞 ①循環障害に関連する症状とメカニズム(胸痛・呼吸困難・ショック他) ②看護上のニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
6	慢性期 事例2:COPD ①病態 ②検査 ③治療				講義
7	事例2:COPD ①呼吸障害に関連する症状とメカニズム(呼吸困難・咳嗽他) ②看護上にニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
8	回復期 事例3:脳梗塞 ①病態 ②検査 ③治療				講義
9	事例3:脳梗塞 ①排泄機能障害、身体的不活動院関連する症状とメカニズム(失禁・廃用性症候群他) ②看護上にニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
10	終末期 事例4:肝硬変 ①病態 ②検査 ③治療				講義
11	事例4:肝硬変 ①安楽に関連する症状とメカニズム(痛み・嘔気他)②看護上にニーズと必要な看護			確認テスト(配点:10点)	講義・グループワーク
12	グループワーク事例:年齢(青年期・成人期・老年期) 疾患(胃がん、心不全、大腿頸部骨折、脳出血、肺がん等) 健康状態(急性期・回復期・慢性期・終末期)				講義
13	テスト(20分)・グループ発表準備			事前学習(配点:20点)	講義
14	グループワーク発表				演習
15	グループワーク発表				演習
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等	必要時資料を配布します。				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、レポート(20点)、確認テスト(40点)、終講試験(40点)				
関連科目	形態機能学、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、領域別臨地実習				
学生へのメッセージ	疾患・症状・治療・看護を関連付けて、対象の今の状態を把握する訓練をします。臨地実習で必要とされる判断力を養います。自己学習を事前に行い、授業に参加するようにして下さい。				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	臨床看護技術Ⅱ 呼吸循環を整える技術・救急蘇生法演習、検査、創傷処置・包帯法				
講師名	①速水 美樹 ②久保川 利哉			実務経験	①専任教員 ②講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	呼吸循環を整える基礎的な援助技術を理解し、実践できる。 創傷管理の基礎知識を理解し、その援助を実践できる。 救急処置の必要性を理解し、実践できる。 検査の意義・目的を理解し、検査に合わせた看護援助が実践できる。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	症状・生体機能管理技術	A.症状・生体機能管理技術の基礎的知識 ①症状・生体機能管理の目的と看護師の役割 ②検体検査および生体情報のモニタリング			講義
2		B.検体検査 ①血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖採血)			講義
3		B.検体検査 ②尿検査 ③便検査			講義
4		B.検体検査 ④喀痰検査			講義
5		生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②SPO ₂ モニター ③血管留置カテーテルモニター			講義
6	創傷管理技術	創傷措置 ①創傷管理とは ②皮膚の構造 ③創傷治癒課程 ④創傷管理の方法 ⑤褥瘡			講義
7		包帯法 ①包帯法の意義・目的 ②包帯の種類 ③包帯の巻き方(講義・演習)			講義
8		包帯法 ③包帯の巻き方(講義・演習)			演習
9	診察・検査・処置における技術	A.診察の介助 ①診察介助の目的 ②診察時の体位と介助			講義
10		B.検査・処置の介助 ①X線検査 ②コンピュータ断層写真 ③磁気共鳴画像(MRI) ④内視鏡検査 ⑤超音波検査(エコー検査) ⑥心電図検査 ⑦肺機能検査 ⑧核医学検査 ⑨穿刺			講義
11	呼吸・循環を整える技術 救命救急措置技術	呼吸・循環を整える技術 A. 酸素療法(酸素吸入法) B. 排痰ケア C. 胸腔ドレナージ			講義
12		呼吸・循環を整える技術 D. 吸入 E. 人工呼吸療法 F. 体温管理の技術 G. 末梢循環促進ケア			講義
13		救急救命処置技術 A. 救急救命の基礎知識 B. 心肺蘇生法 C. 止血法 D. 院内急変時の対応			講義
14		救急救命処置技術 一次救命処置の実践			演習
15	テスト (①速水 美樹 50 点 ②久保川 利哉 50 点)				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院				
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :医学書院 生体検査・検体検査・看護技術 :学研 ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社 看護 形態機能学 :日本看護協会				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(呼吸循環を整える技術・救急蘇生法演習・創傷措置・包帯法:50 点/検査:50 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	臨床看護技術Ⅲ 与薬、採血・注射・輸血					
講師名	勅使川原 真弓			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理法を学び、与薬における看護師の役割を理解する。 各投与の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	基礎的知識 与薬の基礎知識				講義	
2	与薬法 経口与薬・口腔内与薬				講義	
3	与薬法 吸入・点眼・点鼻				講義	
4	与薬法 経皮的与薬・直腸内与薬				講義	
5	注射法 注射の基礎知識				演習	
6	注射法 皮下注射・皮内注射				講義	
7	注射法 筋肉内注射・静脈内注射				講義	
8	注射法 点滴静脈内注射・中心静脈内カテーテル				講義	
9	注射法 輸液ポンプ・シリンジポンプ				講義	
10	注射法 輸血の管理				演習	
11	点滴の計算				演習	
12	針とアンプルの接続 アンプルカット				講義	
13	皮下注射・筋肉注射				演習	
14	点滴接続				演習	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ :医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論					
参考書・資料等	根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 :医学書院					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論概論					
講師名	石向 順子				実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。 在宅看護とは何か、臨床看護とは異なる特徴、在宅看護が必要とされている社会的背景の変遷、家族看護の意味するところを学ぶ。 在宅看護に関する関係法規を学ぶ。					
到達目標	在宅看護の目的と基本理念が理解できる。 在宅看護と臨床看護の特徴が理解できる。 在宅看護の変遷と社会背景について理解できる。 在宅看護の対象者の特徴が理解できる。 在宅看護に関する関係法規が理解できる。					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	在宅看護に至る社会背景			前課題：訪問看護の歴史	講義	
2	在宅看護の対象者			課題 DVD：感想 『ドキュメント 72 時間 街をゆく』	講義	
3	在宅看護の対象者としての家族			課題： 在宅ケア・在宅療養者・介護 者の記事	講義	
4	在宅看護の提供方法				講義	
5	在宅に関わる法令・制度			課題：関係法規について	講義	
6	訪問看護制度				講義	
7	在宅看護の目的と特徴・まとめ				講義	
8	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目	関係法規					
学生への メッセージ	「在宅看護」って何だろう？ 臨床の看護と在宅の看護って何が違うの？ 患者さんの自宅へ訪問し、病棟で行った ケアを提供するの？ 在宅での看護は病室におけるケアの延長だけではありません。イメージを深めるために、ビデオ学習・ニュースを 取り入れ、地域や自宅で生活する、療養することや療養者を抱える家族について理解を深めてほしいと思っています。					

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ					
講師名	小和田 裕美			実務経験	保健師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	前期	
学習目的	地域の様々な現場での健康課題に対する支援を理解し、健康な暮らしに向けての課題を他者と共有しながら見出していく力、それを人に伝える力を身に付ける。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	ガイダンス 臨地演習の明確化				講義	
2	地域の健康課題とその取り組みについて情報の獲得				講義	
3	現場での情報収集				講義	
4	現場での情報収集				講義	
5	現場での情報収集				講義	
6	チームでの共有				講義	
7	プレゼンテーション			プレゼンテーション	発表会	
8	再構築				講義 グループワーク	
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅱ 防災プロジェクト				
講師名	前原 史枝			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	地域で暮らす多様な人々の災害時の支援を理解する。				
到達目標	暮らしにおける災害対策において、看護師としてどのような役割を果たすことができるのか考える。 避難力(イメージ力、危険予測力、状況判断力など)を身につける。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	地域での暮らしにおける防災対策				講義 個人ワーク
2	演習(シミュレーション)				講義 グループワーク
3	防災について 看護学生として何ができるか防災プロジェクトを立ち上げる。 小山市について調査、防災プロジェクトチーム編成、情報収集				グループワーク
4	問題発見、解決策を考える				グループワーク
5	プレゼン準備(プレゼンパネル作成、リハーサル、プログラム、役割分担)				グループワーク
6	プレゼンテーション				グループワーク
7	プレゼンテーション				グループワーク
8	リフレクション				講義 グループワーク
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論2 :医学書院				
参考書・資料等	避難シミュレーションで命を守る！－新しい避難訓練とマニュアルづくり－ 鈴木敏恵著:教育同人社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目	災害看護学				
学生への メッセージ	危険に気づくセンシング能力を高められるために演習を行ないます。 そして、小山市について調査し地域の中で防災について看護学生として何ができるのか提案します。				

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅲ 在宅でのコミュニケーション、日常生活行動への援助					
講師名	石向 順子			実務経験	看護師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	地域包括システムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	療養の場の移行に伴う看護					
2	在宅看護の過程					
3	療養上のリスクマネジメント ・転倒、転落 ・薬物 ・火災 ・医療処置					
4	在宅における感染対策					
5	在宅療養者の権利保障 ・個人情報の保護 ・成年後見制度 ・虐待の防止					
6	在宅における災害対策 地域・在宅における時期別看護					
7	在宅における終末期の看護					
8	在宅におけるエンゼルケア ACP					
9	在宅におけるコミュニケーション					
10	医療的ケア児の地域での生活を支える看護					
11	精神疾患がある在宅療養者への看護					
12	難病とともに生きる在宅療養者の看護					
13	認知症がある在宅療養者の看護					
14	在宅におけるケアマネジメント					
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅳ 医療処置に伴う生活支援、在宅での医療処置技術					
講師名	石向 順子				実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	在宅療養者の特徴を理解し、病期や状況に応じた看護について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	在宅における看護技術 1. 食生活、嚥下に関する在宅看護技術				講義	
2	2. 経管栄養法を受ける療養者の援助				講義	
3	食生活、嚥下に関する在宅看護の技術				演習	
4	3. 在宅における創傷管理(褥瘡・スキンケア)				講義	
5	在宅におけるポジショニング				演習	
6	在宅における清潔ケア				講義	
7	在宅における人工呼吸器の援助				講義	
8	在宅酸素療法				講義	
9	在宅における排痰ケア				演習	
10	移動・活動に関する在宅看護技術				演習	
11	在宅における服薬管理				講義	
12	在宅における排泄ケア				講義	
13	在宅における排泄ケア				演習	
14	まとめ				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 : 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2 : 医学書院					
参考書・資料等	写真でわかる訪問介護 : インターメディカ					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅴ 在宅療養者の健康課題への看護、看護過程				
講師名	①小和田 裕美 ②鈴木 恵一			実務経験	①看護師 ②専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	在宅療養者の健康課題を明らかにし、その人らしい暮らしを支えるための看護の実際について理解する。				
到達目標	地域の健康ニーズをふまえ、ひとり一人の生活と健康をよりよくするための支援について理解する。 社会が求める看護について考え、これからの地域・在宅看護のあり方を創造的に考えることができる。 地域・在宅看護過程の特性をふまえた地域・在宅看護過程の展開方法を理解する。				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	在宅療養者の健康課題への援助 1)地域に暮らす人の健康課題 2)地域包括ケアシステムと地域・在宅看護の役割				講義
2	在宅療養者の健康課題への援助 3)地域・在宅看護活動の創造と展開例 4)訪問看護実習の実際				講義
3	在宅療養者の健康課題への援助 5)地域・在宅看護過程の基本 6)地域・在宅看護過程の特徴				講義
4	地域・在宅看護における看護過程 1)事例紹介(ALS) 2)情報収集とアセスメント			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
5	地域・在宅看護における看護過程 2)情報収集とアセスメント 3)看護問題・看護目標			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
6	地域・在宅看護における看護過程 "			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
7	地域・在宅看護における看護過程 4)看護計画			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
8	地域・在宅看護における看護過程 5)実施と評価 6)まとめ			地域・在宅看護実習記録	講義・演習
教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 :医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論2 :医学書院				
参考書・資料等	強みと弱みからみた在宅看護過程 : 医学書院 コミュニティナース まちを元気にする"おせっかい"焼き看護師 : 気楽舎				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目	公衆衛生学、関係法規、社会福祉、老年看護学				
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学概論				
講師名	國井 哲子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	成人の特徴を理解し、健康保持・増進や疾病の予防について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	成人の特徴と生活				講義
2	成人の生活習慣とその影響				講義
3	成人を取り巻く環境 人口、経済、環境、メンタルヘルスと自殺、健康状態				講義
4	成人期に特徴的な健康問題 健康観、疾病予防、ストレス理論				講義
5	ヘルスプロモーション活動 健康増進、労働者の健康、トータルヘルスプロモーション				講義
6	急激な健康の破綻 急性期、がん、フィクスの危機理論、慢性期患者の特徴				講義
7	自己効力 自己効力を促進する4つの要素 死の受容 結果予期、効力予期、キューブラー・ロスの市の受容				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ 周術期・救急、終末期、リハビリ期				
講師名	①竹内 梢 ②富澤 喜久江 ③高岩 順子			実務経験	①看護師 ②緩和ケア認定看護師 ③専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	成人の周術期・救急期・終末期・リハビリ期の健康レベルにある患者の特徴を理解し、看護をてんかいするための基本的看護を理解する。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	周術期・救急	周術期看護の概論 麻酔法・呼吸管理・体液管理		6 章 P194～216	講義
2		手術前の看護 外来における看護・術前処置・術前準備・日帰り手術における役割		7 章 P218～232	講義
3		手術中の看護 安全管理・入室前、入室時、麻酔導入時の看護・手術中看護・環境管理		8 章 P250～290	講義
4		手術後の看護 ①回復への援助		9 章 A P294～309	講義
5		手術後の看護 ②術後合併症について		9 章 B P311～331	講義
6		手術後の看護 ③ICU看護 ④対象別看護(1)		10・11 章 P334～370	講義
7		手術後の看護 ④対象別看護(2)		12・13 章 P372～405	講義
8	終末期	人生の最期の時を支える看護 人生の最終段階における医療の現状 緩和ケア概論 緩和ケア病棟 他			講義
9		人生の最期の時を支える看護 全人的苦痛(トータルペイン)・スピリチュアルケア・臨死期のケア			講義
10		人生の最期の時を支える看護 家族ケア・グリーフケア・エンゼルケア 他			講義
11	リハビリ期	慢性期にある患者の看護:慢性期の特徴、疾患、治療経過の特徴、患者のニーズ			講義
12		慢性期にある患者の特徴:患者の特徴、身体的心理的社会的特徴、各期の問題、痛みの軌跡、看護の特徴			講義
13		回復期にある患者の看護:理論、障害がある人とその生活を支援する看護			講義
14		回復期にある患者の看護:看護の実際、看護師の役割、維持期のリハビリテーションと看護、社会参加への支援:在宅ケアと看護師の役割			講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護学総論 :医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等	ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(周術期・救急:50 点/終末期:20 点/リハビリ期:30 点)				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度		
授業科目名		成人看護学方法論Ⅱ 脳神経、循環器、呼吸器				
講師名		①新井 麻衣 ②高橋 堅吾 ③山本 佳代		実務経験	①②看護師 ③専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的		脳神経機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 循環機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 呼吸機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。				
到達目標		看護が理解できる。				
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	① 脳神経	脳神経機能障害のある患者の看護 1) 原因と障害の程度とアセスメント ①生命・生活への影響 ②意識障害		パソコン (パワーポイント)		講義
2		2) 運動感覚機能障害・言語機能障害 ①高次脳機能障害		パソコン (パワーポイント)		講義
3		②病気や機能障害に応じた看護 頭部外傷・ギランバレー症候群・ALS・脳腫瘍・脳炎・髄膜炎 嚥下障害・排尿障害・パーキンソンについて		パソコン (パワーポイント)		講義
4		3) 検査を受ける患者への看護(脳波・髄液・アンギオ) 4) 病期や機能障害に応じた看護(CI)		パソコン (パワーポイント)		講義
5		4) 病期や機能障害に応じた看護(くも膜下出血)		パソコン (パワーポイント)		講義
6	② 循環器	循環器障害のアセスメントと看護 心臓の構造・症状と看護				講義
7		検査と治療時の看護				講義
8		疾患を持つ対象の看護① 心筋梗塞患者の看護				講義
9		疾患を持つ対象の看護② 心筋梗塞患者の看護				講義
10	③ 呼吸器	医療の動向と看護 呼吸器の構造と機能 喫煙と呼吸器疾患との関連性・結核と新型インフルエンザについて 標準予防策について・呼吸器疾患患者の特徴 呼吸器構造(肺胞、気管支、縦郭に存在する臓器)				講義
11		呼吸器疾患の主な症状 呼吸のために肺を動かすメカニズム・呼吸の調節・ガス交換と酸塩 基平衡について・呼吸器疾患の自覚症状と他覚症状				講義
12		呼吸器疾患の主な症状と病態生理 異常呼吸音の分類と疾患との関連性・CO ₂ ナルコーシスについて				講義
13		各呼吸器疾患の病態・診断・治療・検査 動脈血ガス分析でわかること 呼吸機能障害のパターン(拘束性・閉塞性・混合性寒気障害) 気管支鏡検査・胸腔穿刺・人工呼吸の適応について				講義
14		呼吸器疾患の看護 異常呼吸音について振り返り・体位ドレナージとは・肺がん患者の 看護・気管支喘息患者の看護・慢性閉塞性肺疾患患者の看護				講義
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学7 脳神経 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 循環器 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 呼吸器 : 医学書院				
参考書・資料等		ナースが視る人体 : 講談社 ナースが視る病気 : 講談社				
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目		脳:解剖生理				
学生へのメッセージ		【脳神経 新井 麻衣】 【循環器 高橋 堅吾】				

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ 消化器、運動器、内分泌					
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	消化器機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 内分泌機能に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 運動器に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	食道がん 胃食道逆流症				講義	
2	胃・十二指腸潰瘍 胃がん				講義	
3	大腸疾患(検査、手術、看護)				講義	
4	ストマについて 便秘・腸閉塞				講義	
5	膵炎(ERCP検査、治療)				講義	
6	胆石症			小テスト	講義	
7	ウイルス肝炎			小テスト	講義	
8	肝硬変				講義	
9	肝硬変、肝細胞がん			小テスト	講義	
10	糖尿病(検査)				講義	
11	糖尿病(治療、看護)				講義	
12	内分泌疾患(治療)				講義	
13	内分泌疾患(検査、看護)				講義	
14	運動器(治療、検査、看護)				講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動期 :医学書院					
参考書・資料等	ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ 血液・造血器系、腎・泌尿器系、女性生殖器系・乳房					
講師名	①國井 哲子 ②			実務経験	①②講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	身体防御機能(血液造血器)に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 内部環境(体液量)・排尿機能・男性生殖器(腎泌尿器系)に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 性・生殖・乳腺機能(女性生殖器)に障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	血液・造血器系	血液のはたらき 貧血の症状、病態、看護				講義
2		血液の悪性腫瘍 白血病の症状、病態、看護、化学療法、造血幹移植患者の看護				講義
3		慢性白血病・悪性リンパ腫 様々な治療を受ける患者の看護 抗がん薬・放射線治療を受ける患者の看護				講義
4		輸血治療について				講義
5	腎・泌尿器系	慢性腎臓病① 腎臓の解剖生理、慢性腎臓病の看護				講義
6		慢性腎臓病② 腎代替療法、腎移植、慢性腎臓病の看護、PHの異常				講義
7		ネフローゼ症候群等 ネフローゼ症候群、急性糸球腎炎、慢性糸球体腎炎				講義
8		肺尿路の患者と看護 前立腺肥大症、がん、尿路感染症、膀胱がん、尿路結石症				講義
9	女性生殖器系・乳房	女性生殖器 内性器の診療介助における看護 臓器別機能的疾患患者の看護、子宮、卵巣				講義
10		女性生殖器 内性器の手術を受ける患者の看護 前日・当日・一日目				講義
11		乳房の手術を受ける患者の看護① 二日目から退院まで				講義
12		乳房の手術を受ける患者の看護② 二日目から退院まで				講義
13		女性生殖器の化学療法を受ける患者の看護				講義
14		放射線療法を受ける患者の看護				講義
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 :医学書院					
参考書・資料等	ナースが視る人体 :講談社 ナースが視る病気 :講談社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(血液・造血器系・腎・泌尿器系:60点/女性生殖器系:40点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和7年度		
授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ アレルギー・膠原病 ・ 看護過程					
講師名	①WAGON 講師 ②速水美樹			実務経験	①講師 ②専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的	身体的機能(皮膚・アレルギー・膠原病)に障害を持つ成人の患者のと特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 感覚器に機能障害を持つ成人の患者の特徴及び病期や障害に応じた看護が理解できる。 成人期にある患者の看護がヘンダーソンの看護倫理に基づき、看護過程の展開ができる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	アレルギー・膠原病	アレルギーとは I～Ⅳ型アレルギーの特徴				講義
2		アレルギー疾患 気管支喘息				講義
3		膠原病とは 概要				講義
4		膠原病疾患 関節リウマチ・全身エリテマトーデス				講義
5		感覚器疾患 中耳炎・メニエール病・白内障・緑内障				講義
6	看護過程	看護過程とは 基礎看護実習Ⅱでの学び(看護過程の展開)の振り返り データベースと情報収集 アセスメントの考え方 『患者さんの情報収集ガイドブック』を基に、アセスメントシートの書き方を振り返る (日常生活の中の出来事に置き換えて)				講義
7		関連図と問題の抽出について(優先順位って?) 病態関連図と全体関連図の違い 抽出された問題の整理の仕方(統合の仕方)				講義
8		行動計画 行動計画の立て方 目標の立て方や達成度の書き方 記録のつながりを意識させる				講義
9		看護計画 看護計画の立て方 看護目標・短期目標の立て方やSOAPを用いて看護計画を修正する方法 PDCAサイクル・記録のつながりを意識させる				講義
10		情報収集から問題抽出まで ① (胃がんの事例) DVDの事例を基にデータベース・アセスメント用紙・関連図を各グループ毎にまとめたものから、事例の患者に対して必要な看護を考える				講義
11		情報収集から問題抽出まで ② (胃がんの事例) 書画カメラを用いて各グループでまとめたものを発表し、お互いに意見交換を行う。不足分を追加し、アセスメント内容を充実させる				講義・発表会
12		情報収集から問題抽出まで ③ (慢性心不全の事例) 2事例目のDVDを見て、各自自己学習+各グループでまとめた内容(データベース・アセスメント用紙・関連図)を各グループ毎に共有し、知識を深める				講義
13		関連図の考え方を見直す看護診断について 病態関連図と実習で作成する全体関連図の違いを理解する。 DVDの症例を基に関連図を作成する。NANDA(看護診断)の概要説明				講義
14		成人期の看護過程のまとめ 看護計画とSOAPのつながりを再確認 看護の持続性について				講義
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 循環器 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学6 内分泌・代謝 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 :医学書院					
参考書・資料等	看護過程に沿ったヘンダーソン看護論の実践 :ヌーヴェルヒロカワ					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	老年看護学概論					
講師名	柴田 久仁子			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間	
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期	
学習目的	加齢に伴う高齢者の生活について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	老年期・老年者の理解① 加齢と老化				講義	
2	老年期・老年者の理解② 老年期の発達課題				講義	
3	高齢者の保健医療福祉① 日本の高齢社会の特徴と課題				講義	
4	高齢者の保健医療福祉② 保健・医療・福祉の動向				講義	
5	高齢者の保健医療福祉③ 介護保険制度と介護家族				講義	
6	高齢者の保健医療福祉④ 高齢者の倫理的課題				講義	
7	老年看護の役割 老年看護の特徴・役割				講義	
8	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 : 医学書院					
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 : メディカルフレンド					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ 高齢者アセスメント ・ 高齢者の日常生活援助					
講師名	大久保 礼子			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	加齢に伴う機能低下や日常生活に及ぼす影響を知り、安全・安楽に向けた日常生活について学ぶ。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	高齢者のアセスメント 高齢者の身体的・精神的特徴				講義	
2	身体症状とアセスメント 高齢者によくみられる症状とアセスメント(発熱・痛み・かゆみ)				講義	
3	高齢者によくみられる症状とアセスメント(脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感)				講義	
4	生活機能を整える看護 食生活と嚥下・摂食に関わる援助 ①				講義	
5	食生活と嚥下・摂食に関わる援助 ②				講義	
6	高齢者を理解する 高齢者疑似体験 (演習) 高齢者を観察しよう (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
7	高齢者疑似体験 (演習) 高齢者を観察しよう (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
8	生活機能を整える看護 義歯の取扱い・スポンジブラシの方法 (演習) 高齢者と廃用性症候群 (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
9	義歯の取扱い・スポンジブラシの方法 (演習) 高齢者と廃用性症候群 (個人ワーク)				演習 個人ワーク	
10	身体可動性に関わる援助 基本動作と環境				講義	
11	排泄に関わる援助 生活リズムへの援助				講義	
12	清潔に関わる援助 入浴方法・清拭・陰部洗浄・フットケア				講義	
13	日常生活援助の実際 おむつ交換・入浴 (演習) 高齢者へ日常での健康障害を予防するパンフレット作成(グループワーク)				講義 演習 グループワーク	
14	日常生活援助の実際 おむつ交換・入浴 (演習) 高齢者へ日常での健康障害を予防するパンフレット作成(グループワーク)				講義 演習 グループワーク	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 :医学書院					
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 :メヂカルフレンド社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和7年度	
授業科目名		老年看護学方法論Ⅱ 高齢者の症状別看護 脱水・尿失禁・誤嚥、身体可動性障害、看護過程				
講師名		①WAGON 講師 ②勅使川原 真弓		実務経験	①講師 ②専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的		さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活及び健康を支える看護を理解する。				
到達目標						
学習スケジュール					課題・小テスト・使用機材等	
授業方法						
1	高齢者の 症状別看護 脱水・尿失禁・誤嚥、 身体可動性障害	症状のアセスメントと看護① 発熱・疼痛・痒痒				講義
2		症状のアセスメントと看護② 脱水・嘔吐・浮腫				講義
3		検査を通して高齢者の援助を考える 上部内視鏡透視・上部消化管透視				講義
4		急性期の高齢者の援助 術前訓練・術後訓練				講義 グループワーク
5		術後の高齢者の援助① ムーアの分類における身体変化				講義
6		術後の高齢者の援助② 術後合併症				講義
7		高齢者の健康 リハビリテーションを受ける高齢者への看護				講義
8		障害の特徴① 慢性期の高齢者への看護				講義
9		障害の特徴② エンドオブライフケア				講義
10		障害の特徴③ 事例を使ってアセスメント・計画立案				講義
11	看護過程	情報の整理			記録用紙1号	講義・演習 個人ワーク グループワーク
12		患者の現状をつかむためのアセスメント①			記録用紙2号	講義・演習 個人ワーク グループワーク
13		看護問題抽出			看護問題リスト	講義 個人ワーク
14		看護問題抽出			看護問題リスト	グループワーク
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 老年看護学 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 :医学書院				
参考書・資料等						
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目						
学生への メッセージ						

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	老年看護学方法論Ⅲ 疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患・呼吸器疾患 ・ 骨粗鬆症・骨折 褥瘡・認知症・高齢者の薬物療法					
講師名	①岡 紗織 ②中山 恵子 ③大久保 礼子			実務経験	①②看護師 ③専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的	高齢者に特有な疾患の特徴や看護を理解する。 加齢に伴う機能低下や日常生活に及ぼす影響を知り、V.ヘンダーソンの看護理論に基づく 看護過程の展開ができる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	①疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患・呼吸器疾患・ 骨粗鬆症・骨折	症候のアセスメントと看護 症候のアセスメントとは、個別性の看護とは 掻痒・皮膚疾患		パソコン（パワーポイント）	講義	
2		症候のアセスメントと看護 発熱・痛み・脱水		パソコン（パワーポイント）	講義	
3		症候のアセスメントと看護 嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡・スキンケア		パソコン（パワーポイント）	講義	
4		身体疾患のある高齢者の看護 脳卒中・心不全・糖尿病・COPD・がん・パーキンソン病		パソコン（パワーポイント）	講義	
5		高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本活動		パソコン（パワーポイント）	講義	
6		高齢者の特徴 運動疾患 手術前後のマネジメント		パソコン（パワーポイント）	講義	
7		高齢者の特徴 運動疾患 手術前後のマネジメント		パソコン（パワーポイント）	講義	
8		運動器疾患 皮膚の疾患		パソコン（パワーポイント）	講義	
9		運動器疾患 皮膚の疾患		パソコン（パワーポイント）	講義	
10		皮膚の疾患（褥瘡）		パソコン（パワーポイント）	講義	
11	③褥瘡・認知症・ 薬物療法	認知症 認知症とは 認知症の種類と看護 加齢性変化と認知症			講義	
12		認知症を抱える本人と家族看護 国家試験問題から読み解く			講義	
13		褥瘡 基礎知識 予防法			講義	
14		薬物療法・呼吸器疾患・循環器疾患 薬物動態・ポリファーマシー・老年症候群 老年期における呼吸器疾患の特徴 老年期における循環器疾患の特徴			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論 :医学書院					
参考書・資料等	根拠がわかる老年看護技術 :メヂカルフレンド社 看護形態機能学 :日本看護協会					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、 筆記試験(疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患 呼吸器疾患:40 点/骨粗鬆症・骨折:40 点/褥瘡・認知症・高齢者の薬物療法:20 点)					
関連科目						
学生への メッセージ	【疾患を持つ高齢者の看護 循環器疾患・呼吸器疾患 岡 紗織】 【骨粗鬆症・骨折 中山 恵子】					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	小児看護学概論				
講師名	WAGON 講師			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	子どもと家族を取り巻く環境を理解する。 小児保健と看護の動向・小児医療・小児看護の変遷及び子どもの権利・倫理・生命尊厳 子どものライフサイクル各期の特徴と成長・発達が理解できる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	小児看護の特徴 発達段階(成長・発達)、 小児医療の現状、動画視聴				講義
2	小児看護の目的と役割 小児看護の目標、家族支援				講義
3	子どもと家族を取り巻く社会 児童に関する法令、GW(児童福祉法、学校保健安全法、児童虐待防止等に関する法令)				講義
4	子どもと家族を取りまく社会 児童に関する法令、成長発達				講義
5	小児の成長・発達 GW 発表、発達評価				講義
6	家族アセスメント 子どもの発達段階とアセスメント				講義
7	総まとめ 小児看護、家族看護、復習・確認問題				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児臨床看護学総論 :医学書院				
参考書・資料等	国民衛星の動向 :一般財団法人 厚生労働統計協会				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生への メッセージ					

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	小児看護学方法論Ⅰ 保健、発達に応じた保育				
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	小児各期における健康増進のための子供と家族への看護が理解できる。 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護が理解できる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護① 出生数、合計、特殊出生率、こどもの死亡、成長・発達				講義
2	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護② 新生児～乳児～幼児の身体的特徴				講義
3	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護③ アプガースコア、母乳、新生児黄疸、体重減少、胎児循環、産瘤、頭血腫				講義
4	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護④ 子どもの反射、スクリーニング検査、成長・発達				講義
5	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護⑤ ピアジェの認知発達理論、遊び、社会的発達、母乳と離乳食			確認問題	講義
6	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護⑥ プレパレーション、発育曲線の読み方、学童期の特徴、肥満指数				講義
7	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護⑦ 思春期の成長発達に応じた生活への支援				講義
8	病気や診療入院が子どもと家族に与える影響と看護 病気に対する子どもの理解、インフォームドコンセント、兄弟や家族に応じた日常生活への援助				講義
9	感染症に罹患した子どもと家族の看護、周手術期の子どもと看護 隔離の目的・方法、隔離の身体的・心理的・社会的影響、子どもの発達に応じた日常生活への援助				講義
10	外来における子どもと家族への看護 活動制限の目的、心理社会的影響				講義
11	検査・処置を受ける小児と家族の看護① 検査を受ける子どもの気持ち、検査に伴う看護			確認問題	講義
12	検査・処置を受ける小児と家族の看護② 検査を受ける子どもの気持ち、検査に伴う看護				講義
13	診察に伴う看護 身体測定、心配蘇生			確認問題	講義
14	子どもの痛みの受け止め方、プレパレーション プレパレーション、検査・処置(与薬)、救命処置				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ 疾病				
講師名	新市民病院 医師			実務経験	医師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	子どもに起こりやすい健康障害と症状、診断、予後について理解する。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	小児保健 健診・予防接種 先天異常				講義
2	小児代謝性疾患の概論と各論				講義
3	小児免疫・アレルギー				講義
4	小児看護 消化器				講義
5	小児看護 血液・造血器				講義
6	内分泌疾患と看護				講義
7	小児神経				講義
8	新生児の看護				講義
9	小児看護 呼吸器				講義
10	小児看護 悪性新生物				講義
11	感染症の概論と各論				講義
12	小児 循環器				講義
13	小児 腎・泌尿器				講義
14	新生児の正常と異常など				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等	写真でわかる小児看護技術アドバンス :インターメディカ				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生への メッセージ					

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ 疾病を持つ小児看護 ・ 看護過程					
講師名	①WAGON 講師 ②中島 一美			実務経験	①講師 ②専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的	健康課題を持つ子供と家族への看護について理解できる。 検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解できる。 子どものライフサイクル各期の特徴と成長・発達を理解し看護過程の展開ができる					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	疾病を持つ小児看護	1. 特別な状況にある子供と家族の看護 ①虐待を受けている子どもと家族への看護			講義	
2		②災害を受けた子どもと家族への看護			講義	
3		2. 急性期にある子どもと家族の看護 ①急性症状 ②救急救命処置			講義	
4		③周手術期			講義	
5		3. 慢性期にある子どもと家族の看護 ①慢性疾患 DM			講義	
6		②先天性疾患 ③心身障害			講義	
7		④ネフローゼ症候群			講義	
8		⑤ I 型DM			講義	
9		⑥急性白血病			講義	
10		⑦終末期の看護			講義	
11	看護過程	小児看護における看護過程 看護過程に必要な知識・小児の発達段階			講義	
12		患者の現状をつかむためのアセスメント 病態(事前学習をもとに関連図を書く)			講義	
13		患者の現状をつかむためのアセスメント データベース・アセスメント・看護問題の抽出			講義	
14		看護計画 看護計画をチーム内でアドバイス			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児臨床看護学総論 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護学各論 : 医学書院					
参考書・資料等	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護学 : 照林社					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度		
授業科目名		母性看護学概論				
講師名		WAGON 講師		実務経験	専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度		2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的		母性の概念、母性性の発達、母性看護の対象を理解し、女性のライフサイクル上の発達学的特徴と健康問題を関連させて理解することができる。母性の対象とそれを支える関係法規、母性保護や健康支援の現状を通して、母性看護の役割や課題についてひろく理解することができる。				
到達目標		1)母性看護の基盤となる概念がわかる。 2)母子相互作用と家族の機能について理解する。 3)女性のライフサイクルの特徴と健康課題について理解する。 4)生命倫理や子供の虐待について考え、看護者としての役割を考察する。 5)母性看護の統計と法律より、わが国の今後の課題を理解する。				
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	1)母性看護の基盤となる概念 ①母性とは ②セクシュアリティ ③リプロダクティブヘルス／ライツ ④ヘルスプロモーション ⑤母性看護の在り方			事前レポート(配点:10点)	講義	
2	1)母子関係と家族発達 ①母親役割と父親役割 ②家族発達				講義	
3	1)女性の解剖学的特徴と性周期 2)生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル				講義	
4	1)母子保健統計 ①出生 ②合計特殊出生率 ③周産期死亡 ④死産 ⑤妊産婦死亡⑥婚姻・離婚 ⑦世界の母子保健統計				講義	
5	1)母子保健と法律 ①母子保健法 ②労働基準法 ③男女雇用機会均等法 ④育児・介護休業法 ⑤母体保護法 ⑥死産の届け出に関する規定 ⑦戸籍法 2)母性看護にかかわる施策			事前レポート(配点:10点)	講義・グループワーク	
6	1)児童虐待の現状と対応 2)児童虐待の予防			事後レポート(配点:10点)	講義・グループワーク	
7	1)生命倫理と看護倫理 母性看護における倫理的課題			事後レポート(配点:10点)	講義・グループワーク	
8	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院				
参考書・資料等		国民衛生の動向 :一般財団法人 厚生労働統計協会				
評価指標		出席状況、授業への積極的参加、 レポート(40点)筆記試験(60点)				
関連科目		公衆衛生学、関係法規、母性看護学方法論Ⅰ、母性看護学方法論Ⅱ、母性看護学方法論方法論Ⅲ、母性看護学実習				
学生へのメッセージ		母性看護概論では、母性とは何かを幅広くとらえリプロダクティブヘルス／ライツについて理解し、児童虐待や生命倫理についても考える機会とします。女性、そしてその家族の生涯を通じた、健康の保持・増進を旨とする看護の実践を理解するに、母子保健に関わる統計や法律にも目を向け、社会の変化に応じた看護師の役割を学んでいきます。				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ 保健				
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	女性のライフステージ各期における特徴と健康課題について理解し、リプロダクティブヘルスケアの視点から母性看護の役割とセルフケアを高める支援の在り方を学ぶ。				
到達目標	1)セルフケアを高める支援の在り方がわかる。 2)女性のライフステージ各期の特徴と健康課題を理解する。 3)リプロダクティブヘルスの現状と課題について理解する。 4)受胎調節法の種類の特徴について理解する。 5)性感染症、妊娠中絶、DVと女性の健康についての現状と看護者の役割について理解する。 6)不妊治療の実際と、治療を受ける家族の看護について理解する。 7)在日外国人の母子保健についてその現状を理解する。				
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1)女性のライフステージ 2)女性の健康				講義
2	1)保健指導技術 ①健康教育 ②指導案作成の基礎知識				講義
3	思春期の特徴				講義
4	1)思春期の健康課題 ①月経に関する健康指導 ②性教育				講義・グループワーク
5	成熟期女性の特徴				講義
6	1)成熟期女性の健康課題 ①女性に特有の癌				講義・グループワーク
7	更年期・老年期の特徴				講義
8	1)更年期・老年期の健康課題 ①更年期障害 ②骨粗鬆症			事後レポート:配点10点	講義・グループワーク
9	リプロダクティブヘルス／ライツとは			事前レポート:配点10点	講義
10	家族計画と受胎調整指導に関して				講義
11	人工妊娠中絶と看護				講義
12	1)性感染症とその予防 2)性的暴力を受けた女性に対する看護				講義
13	不妊治療を受ける家族の看護				講義
14	国際化社会と看護			事後レポート:配点10点	講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等	国民衛生の動向 :一般財団法人 厚生労働統計協会				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、レポート(30点)、筆記試験(70点)				
関連科目	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学方法論Ⅲ 母性看護学実習				
学生へのメッセージ	女性の一生を通じた母性の健康の保持増進を目指し セルフケアを高める支援を軸に、次世代の健全育成を目指す看護の在りかたを学びます。				

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ 正常妊娠・産褥・新生児 演習					
講師名	峯 愛子			実務経験	専任教員	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期	
学習目的	妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護について理解する。 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における必要な援助技術を習得する。					
到達目標						
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等		授業方法
1	妊娠期の看護 妊娠期の精神的社会的特性 妊婦と胎児のアセスメント					講義
2	妊婦と家族の看護(ビデオ:レオポルド・腹囲・子宮底判定) 妊娠各期の胎児の発育・妊婦のマイナートラブルへの指導			ビデオ		講義
3	分娩気における看護 分娩の三要素					講義
4	分娩の経過(ビデオ:分娩の回旋 演習動画:胎児回旋)			ビデオ・動画		講義
5	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護					講義
6	分娩気看護の実際(演習動画:子宮収縮・授乳)			動画		講義
7	産褥期における看護 産褥の身体的・精神的・社会的変化 褥婦のアセスメント					講義
8	褥婦と家族の看護(ビデオ:子宮復古・乳房管理) 施設退院後の看護(演習動画:子宮収縮・授乳)			ビデオ・動画		講義
9	新生児における看護 新生児の生理					講義
10	胎児のアセスメント					講義
11	新生児の看護(ビデオ:新生児期の判定・診察・原子反射) (演習動画:新生児計測と診断・原子反射)			ビデオ・動画		講義
12	学内実習 レオポルド触診 腹囲・子宮底の測定					演習
13	新生児の体重測定・計測 沐浴					演習
14	リフレクション					演習
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ 周産期の異常、異常新生児、看護過程				
講師名	①吉原伸恵 ②			実務経験	①助産師 ②専任教師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	健康問題のある妊娠期・分娩期・産褥期・早期新生児期にある看護について理解する。 周産期における対象の特徴を理解し、科学的思考に基づき看護過程の展開ができる。				
到達目標					
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	① 周産期異常	ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症 ハイリスク妊娠の影響因子、妊娠期の感染症について			講義
2		ハイリスク妊娠の看護 高年妊婦、老年妊婦、肥満過剰体重増加妊婦、ART後の妊婦、合併症を有する妊婦、切迫流早産の妊婦、妊娠高血圧症候群の妊婦の看護			講義
3		妊娠期の健康問題に対する看護、 多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠悪阻、貧血 分娩期の健康問題に対する看護 前期破水、遷延分娩、胎児機能不全			講義
4		分娩期の健康問題に対する看護 胎児機能不全、帝王切開術、分娩時異常出血			講義
5	① 新生児・産褥の異常と看護	新生児の異常と看護 新生児仮死、特有の疾患(呼吸器系)、新生児蘇生法アルゴリズム分娩外傷、低出生体重児 低出生体重児の看護、高ビリルビン血症、ビタミンK欠乏症			講義
6					
7		産褥の異常と看護 異常のある褥婦の看護			講義
8	② 看護過程	ウェルネス志向とは ウェルネス志向と問題思考の違い、ウェルネス志向で考える			講義 グループワーク
9		アセスメントの視点 褥婦のアセスメントの考え方・視点、ウェルネス志向での事例の問題抽出			講義 グループワーク
10		事例・情報の整理 情報の整理、分類			講義
11		事例・看護問題の抽出 情報の整理、看護問題の抽出			講義
12		事例・看護計画立案 看護問題優先順位決定、目標設定、看護計画立案			講義
13		事例・看護問題の整理 看護計画立案、看護問題の整理、ウェルネス視点で考えられているか			講義
14		事例・新生児アセスメント 情報の整理、アセスメントの視点			講義
15	テスト				講義
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 :医学書院				
参考書・資料等	看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 :メヂカルフレンド				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ	周産期の A1:K32 異常、異常新生児 吉原伸恵				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	精神看護学概論 保健				
講師名	柴田 久仁子			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	8 回	時間数	15 時間
履修年度	2025 年度	学年	1 年次	履修期	後期
学習目的	精神保健の基本と保持・増進に向けた看護について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	精神医療の歴史と現状 精神保健医療の変遷と今日の課題 精神保健医療に関する法制度 精神に障害がある人の生活を刺させる法制度				講義
2	こころの働きと発達 心の構造・脳の構造と働き 精神発達理論				講義
3	ストレスと適応 現代社会とストレス・ストレスとストレス反応 精神保健における予防概念 心的外傷の及ぼす影響				講義
4	対象理解と精神保健看護の役割 精神保健看護の対象 障害・心の健康の理解 精神保健看護の役割と機能				講義
5	地域移行・生活支援の基礎 地域移行・地域生活支援の必要性 地域移行・地域生活支援の基礎				講義
6	地域移行支援の展開				講義
7	地域生活支援の展開 現状・本人・看護師が心得ておくこと 他 生活支援の場面 ―事例を通して―				講義
8	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目					
学生への メッセージ					

専門 分野				令和 7 年度	
授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ 精神障害者の看護 ・ 症状別看護 ・ 検査				
講師名	WAGON 講師			実務経験	講師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	前期
学習目的	精神看護の対象の理解や支援のための概念を理解する。 精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1 精神看護学の基礎知識 2 精神看護の対象の理解と支援のための概念 脳の仕組みと精神機能、患者－看護師関係(コミュニケーション技術)、精神疾患患者のとりえ方				講義
2	セルフケアを支える看護 オレム・アンダーウッド				講義
3	生きる力と強さに着目した援助 リカバリー、エンパワーメント、レジリエンス、ストレングス、ストレス脆弱性モデル				講義
4	1 リエゾン精神看護とその活動 2 看護師における感情労働とメンタルヘルス				講義
5	精神疾患・障害がある患者への看護 精神科の主な症状				講義
6	精神科で行なわれる治療と合併症の看護 精神科における身体ケア 身体にあらわれる心の痛み、薬物療法における看護、電気けいれん療法の看護、身体合併症				
7	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理 (1)安全管理				講義
8	(2)病棟環境の整備 (3)離院 (4)隔離・身体拘束 (5)CVPPP				
9	1 入院から社会生活の継続までの看護 (1)急性期の看護 (医療観察法医療、精神科救急と看護を含む)				
10	(2)急性期～回復期の移行期における看護 (3)慢性期の看護				講義
11	(4)退院後の生活支援 2 精神科におけるリハビリテーション SST ・ 認知行動療法 レクリエーション療法				
12	地域精神保健活動の概要 精神障害者の生活課題、地域における社会資源の活用と調整				講義
13	ケアする家族への支援 (1)精神障害の家族への影響 (2)家族への支援				講義
14	災害時の精神看護 (1)災害とストレス (2)災害時の精神保健医療活動の基本 災害派遣精神医療チーム(DPAT) (3)被災した精神障害者への支援				講義
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等	はじめての精神科看護 :メディカ出版				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和7年度	
授業科目名		精神看護学方法論Ⅱ 疾患、プロセスレコード				
講師名		小山富士見台病院 医師 ⑤加藤 美名子		実務経験	①～④医師 ⑤専任教員	
単位数		1 単位	授業回数	15 回	時間数 30 時間	
履修年度		2025 年度	学年	2 年次	履修期 前期	
学習目的		精神看護の対象の理解や支援のための概念を理解する。 精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について理解する。				
到達目標						
回数	内 容			課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	疾 患	総論 精神医療の展望			講義	
2		統合失調症 症状、治療など			講義	
3		気分障害 うつ病・躁うつ病 各論 症状、治療など			講義	
4		神経症性障害 神経症圏の疾患 各論 ストレス関連障害および身体表現性障害			講義	
5		器質性精神障害など 認知症・薬物依存・てんかんなど			講義	
6		薬物療法・電気けいれん療法など			講義	
7		摂食障害・睡眠障害 各論			講義	
8		精神療法 各論			講義	
9		環境療法・社会療法			講義	
10		発達障害・知的障害 各論			講義	
11	プ ロ セ ス レ コ ー ド	プロセスレコードとは プロセスレコードの活用・記載方法			講義	
12		プロセスレコードを書いてみよう① 精神看護とコミュニケーション・精神看護のケアとは			講義	
13		プロセスレコードを書いてみよう② 分析と解釈			講義	
14		プロセスレコードの振り返り プロセスレコード検討会			発表会 ディスカッション	
15	テスト					
教科書		系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等						
評価指標		出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(100 点)				
関連科目						
学生への メッセージ		【疾患】 基本的な事項から臨床的なことまで、幅広く講義します。				

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ 疾患の看護、看護過程				
講師名	加藤 美名子			実務経験	専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期
学習目的	精神疾患・障害のある人の諸問題を看護の視点からアプローチし、回復・自立に向けての看護の多職種との連携を理解する。 精神の疾患・障害がある人の事例の看護過程の展開を理解する。				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	精神看護の基本① 援助の基本 ・ 患者 ―看護師関係の成立―				講義
2	精神看護の基本② 回復を助ける ・ 患者の安全を守る				講義
3	精神疾患を抱える方の看護 対象理解とアセスメント ・ アセスメントツール作成				講義
4	精神疾患特有の症状と援助① 興奮 ・ 抑うつ ・ 躁 ・ 幻覚・妄想 ・ 不安 ・ 無為・自閉 ・ 拒絶				講義
5	精神疾患特有の症状と援助② 水中毒 ・ 希死念慮 ・ 自殺企図 ・ アセスメントツール作成				講義
6	ストレス関連障害・身体表現 性障害のある患者の看護① パニック障害(DVD視聴) ・ パーソナリティ障害			DVD	講義
7	精神作用物質使用による精神行動の障害のある患者の看護 アルコール依存症患者の看護(DVD視聴)			DVD	講義
8	ストレス関連障害・身体表現 性障害のある患者の看護② 摂食障害 ・ 解離性障害 ・ PTSDの看護				講義
9	気分障害のある患者の看護 単極性・双極性障害患者の看護				講義
10	統合失調症患者の看護 急性期～回復期 社会復帰への経過に応じた看護(DVD視聴)			DVD	講義
11	退院を目指した統合失調症患者の看護(看護過程) 事例患者の3側面について考える				講義
12	退院に向けたサポート体制を考える(個人課題)				講義
13	退院を目指した統合失調症患者の看護(看護過程) 事例患者の①つか月後の退院に無K田看護援助を考える(グループワーク)				グループワーク
14					グループワーク
15	テスト				
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 :医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 :医学書院				
参考書・資料等					
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和 7 年度	
授業科目名	看護の統合と実践 I 感染管理、医療安全					
講師名	①竹内 美絵子 ②明石 香澄			実務経験	看護師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	2 年次	履修期	後期	
学習目的	医療安全のマネジメントについて理解する。 医療事故の構造を人間の行動特性から理解する。 看護を安全に提供するために必要な事故防止策を組織的・個人的な取りくみに分けて理解する。 医療場面における事故の特徴と発生要因について理解する。 感染症の管理について理解する。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	感染管理	感染とは 感染の分類 流行性ウイルス感染症と予防接種			講義	
2		結核について			講義	
3		手指衛生、個人防護具の着用			講義	
4		呼吸器、咳エチケット、患者配置、環境整備 リネン管理、安全な注射手技、感染性廃棄物の取り扱い			講義	
5	医療安全	医療安全の概論 事故防止のためコミュニケーション			講義	
6		コミュニケーションツール(チームステップス) エゴグラムを実際行なってみる			講義	
7		過失とは 看護事故の構造 看護事故防止の考え方			講義	
8		注射、輸血、内服与薬、経管栄養 それぞれの危険と要因			講義	
9		転倒・転落(排泄行動によるもの、それ以外のもの)			講義	
10		KYT 事例 グループワークし発表 摂食、嚥下障害、入浴中の事故について			講義	
11		血液、体液媒介感染 抗がん剤の曝露防止 放射線被爆 ラテックスアレルギー			講義	
12		院内暴力について 院内暴力のKYT グループワークし、発表			講義	
13		チューブトラブルについて(中心静脈ライン、器官チューブドレーン) 身体抑制について			講義	
14		患者間違い、多重課題、タイムプレッシャー 業務途中の中断、ヒヤリハット			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 :医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護管理 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(感染管理:30 点/医療安全:70 点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅱ 看護管理 ・ 多重課題看護 他				
講師名	①宮脇 健 ②中村優里			実務経験	①看護師 ②専任教員
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	3年次	履修期	後期
学習目的	看護におけるマネジメントについて理解する。 複数患者の事例展開と多重課題について理解し、看護の知識を統合し活用できる。				
到達目標	患者の状態や状況に合せた援助について考え臨床判断能力・看護実践能力を養うことができる				
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	看護管理	看護とマネジメント 看護管理学とは		パソコン	講義演習
2		看護ケアのマネジメント 安全管理・医療事故・院内感染対策		パソコン	講義演習
3		看護ケアのマネジメント チーム医療		パソコン	講義演習
4		看護サービスのマネジメント 組織として看護サービスをマネジメントする		パソコン	講義
5		マネジメントに必要な知識と技術 看護を取り巻く諸制度		パソコン	講義
6		試験		筆記	
7	多重課題看護 他	複数患者の事例展開 優先順位の判断、援助の優先順位を判断する		事例学習・実習記録・アクションシート	講義演習
8		複合的な状況にある対象の看護の状況を判断し、危険を回避する		事例学習・実習記録・アクションシート	
9		複合的な状況にある対象の看護の状況や援助の優先順位を判断する		事例・情報収集	
10		複合的な状況にある対象の看護の状況を判断し、援助の優先順位を判断し、援助の実践		新市民病院実習 G: 演習 古河総合病院 G: 課題レポート作成	演習
11					
12				古河総合病院 G: 演習 新市民病院実習 G: 課題レポート作成	
13					
14		学びの会		実習チーム	発表会
15					
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 : 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 : 医学書院				
参考書・資料等	医療安全ワークブック: 医学書院				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験、課題レポートの提出 評価は、「看護管理:40 点(筆記試験)」、「多重課題看護他:60 点(課題レポートの提出)」				
関連科目					
学生へのメッセージ					

専門 分野					令和7年度	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅲ 災害看護、国際看護					
講師名	①高橋克聡 ②市村健二			実務経験	講師	
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
履修年度	2025 年度	学年	3 年次	履修期	後期	
学習目的	看護におけるマネジメントについて理解する。 複数患者の事例展開と多重課題について理解し、看護の知識を統合し活用できる。					
到達目標						
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法	
1	災害看護	災害医療・看護とは 救急医療と災害医療の違い、災害サイクル、災害看護の特徴、対象を知る			講義	
2		防災、災害援助活動、システム、災害時の看護師の役割			講義	
3		災害看護 災害サイクルと看護、災害現場での看護の役割			講義	
4		発災から出動迄の看護、災害急性期の看護の役割			講義	
5		災害時におけるトリアージとその重要性、 実際の災害現場でも活動できる知識技術の習得			講義	
6		三角巾による包帯法 災害現場で身の回りの物を使って物品作成			講義	
7		トリアージの実際 トリアージ(START 法)の実習			講義	
8	国際看護	世界と日本の動向 世界の健康問題、異文化の理解、国際協力			講義	
9		国際協力のしくみ プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、国際協力機関について			講義	
10		国際協力機関 ジャパン・ハート、JICA、ODA、NGOの活動 国際看護の実際① 発展途上国の活動についての現状			講義	
11		国際看護の実際② 外国人に対する看護、世界の貧困と健康問題、地域住民への健康問題 同僚が外国人だった場合の対応、PPCAサイクル法			講義	
12		国際看護の実際③ 水と保健衛生、発展途上国の健康問題 下痢・エイズ・マラリアの症状と対策			講義	
13		国際看護の実際④ 女性のリプロダクティブヘルス エイズ・マラリア・結核に対する対策と治療、看護			講義	
14		在日外国人に対する看護活動 対応を一緒に考えてゆく			講義	
15	テスト					
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 :医学書院					
参考書・資料等						
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験(災害看護:50 点/国際看護:50 点)					
関連科目						
学生へのメッセージ						

専門 分野				令和7年度	
授業科目名	看護の統合と実践Ⅳ 看護研究				
講師名	梶原 絢子			実務経験	看護師
単位数	1 単位	授業回数	15 回	時間数	30 時間
履修年度	2025 年度	学年	3 年次	履修期	後期
学習目的	看護における研究の必要性やプロセスを理解する。 看護研究の発表ができる				
到達目標					
学習スケジュール				課題・小テスト・使用機材等	授業方法
1	1. 看護研究の意義 ①看護研究とは何か？ ②看護研究の必要性 2. 看護過程と看護研究の違い ①ケース報告とケーススタディ ②事例報告と事例研究 3. 文献検索について ①文献検索と文献検討の違い ②一次文献と二次文献について 4. グループワークについて				講義
2	5. グループの持ち方 ①グループメンバーの役割分担と活動 6. 看護研究の進め方 ①問題提起から研究成立へ ②研究テーマの絞り込み				講義
3	③研究計画書の作成方法 テーマの絞り込みから研究目的を設定する				講義 グループワーク
4	④研究計画書の作成方法 ・データ収集の方法と研究の具体的準備 ・アンケートの作り方 ④依頼書の書き方				講義 グループワーク
5	・データ収集の方法と準備				講義 グループワーク
6	⑤実施後のデータ整理				講義 グループワーク
7	7. 研究論文・抄録の書き方 ①論文・抄録の構成方法 ②研究目的、仮説、研究内容、考察、結論の書き方、パワーポイント				講義 グループワーク
8	・研究結果、考察、結論のまとめ方 ・引用文献、参考文献のまとめ方				講義 グループワーク
9	・実態調査のまとめ方と研究方法、内容の書き方 ・考察、結論の抄録の書き方アプローチ				講義 グループワーク
10					
11					
12	・評価の仕方の説明 ・抄録を仕上げる				講義 グループワーク
13	8. 研究発表会の仕方 ・発表の司会の仕方と発表会の進め方・抄録の完成				発表会
14	・評価の方法				
15					
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 :医学書院				
参考書・資料等	必要に応じて資料を配布				
評価指標	出席状況、課題提出状況(量・内容等)、授業への積極的参加、筆記試験				
関連科目					
学生へのメッセージ					